

			長崎県水産部水産経営課																													
目的			荷捌施設や出荷用水槽など集出荷施設の増築・機能向上を行い荷受体制を整備し、単価の高い12月の出荷量・共販率の増加を図るなど販路拡大を行い、諫早湾内養殖カキの生産・流通の安定化、漁業者の所得向上を目指す。 また、平成28年度から海外輸出も開始しており、施設整備を通し、一層の輸出量増加に取り組む。																													
目標			・高単価時期の共販率向上によるカキ取引価格の上昇及び生産額の向上を図る ・荷受体制を強化することで鋼製筏整備等（H30、R元）による生産量の増加及び所得額の向上を図る		1																											
事業実施主体			諫早湾漁業協同組合（小長井本所）																													
実施地区			諫早市小長井地区																													
実施期間及び目標年度			実施期間		目標年度																											
			令和2年度～5年		令和5年度																											
助成金額			25,616千円（1/2補助）																													
事業計画の内容			荷捌き施設160㎡の増築及び水槽3基の増設により荷受体制を強化																													
評価	取組の目標（KPI）		受益漁業者38戸のうちデータがある24戸の漁業所得を●●●●●千円増加																													
		基準年（A）	（平成30年度時点）●●●●●千円																													
		現状値（B）	（令和5年度末時点）●●●●●千円	増加率 【=(B-A)/A×100】	170%																											
		目標値（C）	（令和7年度末）●●●●●千円	増加率 【=(C-A)/A×100】	18%																											
	成果目標		・水揚額●●●●●千円の向上 （カキの単価が高い12月の共販率が64.7%から80%への向上と荷受体制の拡充及びカキ養殖施設整備に伴う生産量の増加量を試算し、これが達成した際の水揚げ額を成果目標と定めた。）																													
			現状値（D）	（令和5年度末時点）●●●●●千円（●●●●●千円増） 対目標値【=D/E×100】141%（66%増）																												
			目標値（E）	（令和5年度末）●●●●●千円																												
	（1）現状値の説明		○荷捌き施設の水槽を3基（紫外線殺菌装置含む）増設したことによる効果 ・荷受体制の強化が図られ、漁協に水揚げする漁業者が増え、共販率が64.7%から76%に向上。 ・安心・安全な水産物を提供するため、漁協出荷のカキは紫外線殺菌海水による処理を行っており、「小長井杜鰲」や「華連」といったブランド化に成功していることから単価が向上した。 平成30年度の12月時の出荷単価621円（平均）→令和5年度の12月のお荷単価840円（平均） （大サイズ988円＋中サイズ692円÷2＝840円）																													
			○荷捌き施設整備前後の出荷量等の推移（12月～3月） ・出荷量の推移（平成30年度：162トン→令和5年度：222トン） ・出荷額の推移（平成30年度：●●●●●千円→令和5年度：●●●●●千円）																													
			○出荷額増の要因 ①鋼製筏2基を整備したことにより9,533千円の増 筏1基当たり7トンの生産があるため、7トン×2基＝14トンの増 月毎の出荷割合：12月50%、1月20%、2月20%、3月10%																													
			<table><tr><td colspan="2">筏整備による増</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>計</td></tr><tr><td>出荷量(kg)</td><td>トータル</td><td>7,000</td><td>2,800</td><td>2,800</td><td>1,400</td><td>14,000</td></tr><tr><td>単価(円)</td><td>平均</td><td>840</td><td>580</td><td>495</td><td>459</td><td>—</td></tr><tr><td>出荷額(円)</td><td>合計</td><td>5,881</td><td>1,624</td><td>1,385</td><td>643</td><td>9,533</td></tr></table>			筏整備による増		12月	1月	2月	3月	計	出荷量(kg)	トータル	7,000	2,800	2,800	1,400	14,000	単価(円)	平均	840	580	495	459	—	出荷額(円)	合計	5,881	1,624	1,385	643
筏整備による増			12月	1月	2月	3月	計																									
出荷量(kg)	トータル	7,000	2,800	2,800	1,400	14,000																										
単価(円)	平均	840	580	495	459	—																										
出荷額(円)	合計	5,881	1,624	1,385	643	9,533																										
②共販率向上による5,864千円の増 単価が一番高い12月期の出荷量増によるもの。 <table><tr><td colspan="2">共販率向上効果</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>計</td></tr><tr><td>出荷量(kg)</td><td>トータル</td><td>6,980</td><td>6,667</td><td>7,892</td><td>3,635</td><td>25,173</td></tr><tr><td>単価(円)</td><td>平均</td><td>840</td><td>580</td><td>495</td><td>459</td><td>—</td></tr><tr><td>出荷額(円)</td><td>合計</td><td>5,864</td><td></td><td></td><td></td><td>5,864</td></tr></table>			共販率向上効果		12月	1月	2月	3月	計	出荷量(kg)	トータル	6,980	6,667	7,892	3,635	25,173	単価(円)	平均	840	580	495	459	—	出荷額(円)	合計	5,864				5,864		
共販率向上効果		12月	1月	2月	3月	計																										
出荷量(kg)	トータル	6,980	6,667	7,892	3,635	25,173																										
単価(円)	平均	840	580	495	459	—																										
出荷額(円)	合計	5,864				5,864																										
（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）		事業を活用し、水槽を3基増設し荷受体制が整備されたことにより、共販率が11.3%向上し、高単価期での販売量及び販売額が大きく増加し、漁業者の所得向上に繋がった。																														
（3）所見		令和5年度は、カキが豊漁だったことに加え、荷受体制を強化したことで漁業者からの荷揚量が増え、高単価時期に多く販売することが可能となった。																														
（4）評価機関への意見等																																
今後の改善方向等に関する分析			年度毎の水揚量の増減及び販売開始時期の前後はあるものの、荷受体制を強化したことにより高単価時期以外でも水揚げが可能となったことから、更なるブランディング化を進めシーズン全体の単価向上を図り、施設の稼働率向上及び漁業者の所得向上を目指す。																													